

作成：平成 24 年 3 月 30 日

改訂：令和 5 年 1 月 23 日

1.化学品及び会社情報

製 品 名 : ピュラフィル  
 推奨用途 : 酸性ガスの除去  
 使用上の制限 : 推奨用途以外の使用は専門家の判断を仰ぐこと  
 会社情報 会 社 名 : ニッタ株式会社  
 担 当 部 門 : クリーンエンジニアリング事業部 技術部 技術 1 課  
 住 所 : 〒639-1085 奈良県大和郡山市池沢町 172  
 電 話 番 号 : 0743-56-9361  
 緊急連絡先 : 0743-56-9361  
 FAX 番 号 : 0743-56-8682

2.危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

酸化性固体 区分 2

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性 区分 1  
 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分 1  
 生殖細胞変異原性 区分 2  
 生殖毒性 区分 2  
 特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） 区分 1（呼吸器）  
 区分 3（気道刺激性）  
 特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） 区分 1（呼吸器系）  
 区分 2（神経系）

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性） 区分 2  
 水生環境有害性 長期（慢性） 区分 2

\* 上記で記載のないものは区分に該当しないまたは分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語：危険

## 危険有害性情報

- H302 飲み込むと有害
- H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
- H335 呼吸器への刺激のおそれ
- H341 遺伝性疾患のおそれの疑い
- H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- H372 長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器系の障害
- H373 長期にわたる又は反復ばく露による神経系の障害のおそれ
- H400 水生生物に非常に強い毒性
- H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性

## 注意書き

## 【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。  
可燃物及び禁忌物質との混合を回避するために予防策をとること。  
粉塵、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
環境への放出を避けること。  
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

## 【応急措置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。  
医師の手当て、診断を受けること。  
皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。  
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
皮膚に付着した場合、多量の水と石けんで洗うこと。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。  
漏出物は回収すること。

## 【保管】

施錠して保管すること。  
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
可燃物及び禁忌物質から離して保管すること。

**【廃棄】**

内容物および容器を廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	CAS No.
酸化アルミニウム	45-60%	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	1344-28-1
過マンガン酸カリウム	3-7%	KMnO <sub>4</sub>	7722-64-7
その他	23-47%		

4.応急処置

- 吸入した場合

  - : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、鼻をかませ、うがいをさせ、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
  - : 気分が悪いときは医師に連絡すること。
  
- 皮膚に付着した場合

  - : 皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。不快感があれば医師の診察を受けること。
  - : 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合は医師の診察や手当てを受けること。
  
- 眼に入った場合

  - : 水で数分間注意深く洗い流す。
  - : コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
  - : 刺激が残る場合は、医師の診察をうける。
  
- 飲み込んだ場合

  - : 口をすすぐこと。
  - : 気分が悪いときは医師に連絡すること。

5.火災時の措置

- 適切な消火剤

  - : 炭酸ガス・粉末・泡消火剤、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤

  - : 大量注水、水噴霧
- 特有の危険有害性

  - : 加熱すると容器が爆発するおそれがある。
  - : 火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
  
- 消火を行う者への勧告

  - : 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
  - : 指定の消火剤を使用すること。
  - : 周辺火災の場合は、容器を安全な場所に移す。
- 消火を行う者の保護

  - : 消火作業は自給式呼吸器および適切な保護具を着用。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 出来るだけ粉塵を吸引しないよう保護具を着用する。  
 : 目に入ると刺激性があるため安全眼鏡を着用する

環境に対する注意事項 : 水源に流れないように速やかに処置する。  
 : 粉塵が飛散しないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 掃き集めて、容器に回収する。

7.取り扱いおよび保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 密閉空間で取り扱う際は、換気など適切な安全対策をとる必要がある。  
 : 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。  
 : 粉塵、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。

安全取扱い注意事項 : 吸入や眼及び皮膚への接触を避けるため適切な保護具を着用する。  
 : 取扱中は飲食、喫煙してはならない。

接触回避 : 「10.安定性及び反応性」参照

保管

適切な保管条件 : 密閉容器に入れ、低温で乾燥した場所に保管する。  
 適切な容器包装材 : ポリエチレン、ポリプロピレンなど

8.暴露防止及び保護措置

管理濃度および許容濃度

物質名	管理濃度 mg/m <sup>3</sup>	許容濃度 mg/m <sup>3</sup>	
		日本産業衛生学会	ACGIH
酸化アルミニウム (アルミニウムとして)	N.A	0.5 (吸引性粉塵として) (第1種粉塵として)	1 (吸引性粉塵として)
過マンガン酸カリウム (マンガンとして)	0.05	0.02 (吸引性粉塵として)	0.02

N.A : 設定されていない

‘21年度 日本産業衛生会勧告より

設備対策 : 空気中の濃度を暴露限度以下に保つ為に排気用の換気を行う

## 保護具

呼吸器の保護具	: 防塵マスク
手の保護具	: 保護手袋
目の保護具	: ゴーグルまたは安全眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 皮膚が露出しない長袖等の作業衣を着用すること。
衛生対策	: 粉塵が作業場の空気を汚染しないように、局所排気集塵装置を設置する。

---

## 9.物理的及び化学的性質

物理状態	: 球状
色	: 紫色
臭い	: 強い臭いはない
pH	: データなし
融点	: データなし
沸点	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界爆発上限界/可燃範囲	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
動粘性率	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
溶解度	: 水に微溶、濃酸および濃アルカリに可溶
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし
かさ密度	: 0.7～0.8kg/L

---

## 10.安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応性	: 加熱すると分解する。
避けるべき条件	: 日光、熱、混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 還元剤
危険有害な分解生成物	: マンガン化合物

---

1.1.有害性情報

過マンガン酸カリウムとして

- 急性毒性：経口：LD50 379/750mg/kg（ラット）  
 飲み込むと有害（区分4）  
 経皮：データなし  
 吸入（気体）：GHSの定義における固体であるため、ガスでの吸入は想定できず、分類対象外とした。  
 吸入（蒸気）：データなし  
 吸入（粉塵、ミスト）：データなし
- 皮膚腐食性・刺激性：重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1）
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性：重篤な眼の損傷（区分1）
- 呼吸器感受性又は皮膚感受性：呼吸器感受性：データなし  
 皮膚感受性：データがないため、分類できない
- 生殖細胞変異原性：遺伝性疾患のおそれの疑い（区分2）
- 発がん性：データなし
- 生殖毒性：生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
- 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：呼吸器の障害（区分1）
- 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：長期又は反復暴露による呼吸器、神経系の障害（区分1）
- 吸引性呼吸器有害性：データなし

酸化アルミニウムとして

- 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：上気道刺激性（区分3）
- 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：長期又は反復暴露による肺の障害（区分1 神経系、呼吸器系）

1.2.環境影響情報

過マンガン酸カリウムとして

- 生態毒性：水生生物に有害
- 水性環境毒性 短期(急性)：甲殻類 EC50 0.185mg/L（区分1）
- 水性環境毒性 長期(慢性)：非常に強い毒性（区分1）
- 生態蓄積性：データなし
- 残留性/分解性：データなし
- 土壤中の移動性：データなし
- オゾン層への有害性：データなし

1.3.廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

：内容物及び容器は都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 1 4. 輸送上の注意

国連番号	: UN1490
国連分類	: 5. 1 (酸化性物質類、酸化性物質)
国内規制がある場合の規制情報	: 船舶安全法 : 酸化性物質類 酸化性物質 分類 5 区分 5.1 : 航空法 : 酸化性物質類 酸化性物質 分類 5 区分 5.1
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	: 直射日光及び高温を避け、容器に漏れがないことを確かめる。 : 積み込め荷崩れの防止を確実に行う。

---

## 1 5. 適用法令

労働安全衛生法	: 施行令別表第 3 特定化学物質等 (第 2 類物質、マンガン及びその化合物) 法第 57 条の 2 (施行令第 18 条 2) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (酸化アルミニウム、マンガン及びその無機化合物)
化学物質管理促進法	: 第 1 種指定化学物質 (政令番号 1-412 : マンガン及びその化合物) (PRTR 法)
船舶安全法	: 危規則第 3 条危険物告示別表第 1 酸化性物質類・酸化性物質
航空法	: 施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 酸化性物質・酸化性物質
港則法	: 施行規則第 12 条危険物の種類を定める告示別表 (酸化性物質)
水質汚濁防止法	: 指定物質 (法第 2 条第 4 類、施工令 3 条の 3)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(優先取組物質)

---

## 1 6. その他の情報

消防法危険物の確認試験の結果、非危険物に該当。

上記の情報は各種の文献等に基づいていますが必ずしもすべてを網羅しているものではありません。取り扱いには充分注意して下さい。

この安全データシート (SDS) は JIS Z 7253:2019 に基づいて作成しています。

GHS 分類は JIS Z 7252 : 2019 に基づいて作成しています。

GHS Classification is according to JIS Z7252(2019). \*JIS: Japanese Industrial Standards

---